



地域がん診療連携拠点病院・基幹型臨床研修病院・協力型臨床研修病院・地域医療支援病院・災害拠点病院・熊本DMAT指定病院・救急指定病院

理念 135年の歴史と設立の経緯を忘れず全人医療を提供します

基本方針

患者中心医療

患者の人権と意思を尊重します

患者診療3本柱

がん・救急・予防医療を中心に
医療機能の充実を図ります

完結型医療

地域の医療機関との連携を行い
安心できる医療の展開を行います

社会貢献

災害医療派遣・医療情報公開・医療
ボランティアの活動を行います

医療人育成

医療に携わる喜びが持てる医療人の
育成を行います

第19回JCHO人吉医療センター研究発表会 開催



***** プ ロ グ ラ ム *****

開 会 式		
No	演 題 名	演 者
第1セッション 座長(藤崎 順一/瀬上 竜夫)		
1	ストレッチ実施後の筋力の時間的変化	岩崎 和弘
2	歯科衛生士が口腔ケア介入した終末期口腔がん患者の1例	松永 千恵
3	当院予防医療センターで二次検診に紹介した甲状腺超音波所見について	中村 なつき
第2セッション 座長(米永 和真/丸尾 時雄)		
4	スピードトラック牽引の固定具について一考察 ～昨年の課題を踏まえて下腿サポーターを用いた簡易牽引方法について～	新村 亜耶
5	当院におけるMRI用皮膚マーカ-の検討	吉松 泰浩
6	業務チェックシートを用いた技術間差をなくす試み	里田 亜矢子
第3セッション 座長(渡邊 龍太郎/阪本 裕子)		
7	顧客チームの早出業務見直しによる取り組み	酒井 利佳子
8	再検数削減による検査コスト削減の取り組みについて	正木 優樹
9	術前補水に蛋白質・炭水化物含有飲料を加えた場合の栄養状態の比較検討	大岩 洋子
10	混合病棟における産科入院患者へのサービス向上を目指して ～切迫早産入院患者へのアンケートより～	山下 アヤ子
第4セッション 座長(西村 淳/花牟禮 由美)		
11	全国の災害拠点病院におけるアマチュア無線の保有状況と今後の活用	中村 佑希
12	南九州三県県境地域の急性期病院の役割 — 県域を越えた医療提供体制についての検証—	久保田 智子
特別講演		
「大都会における地域包括ケア病棟8か月の実績と現状」 独立行政法人 地域医療機能推進機構(JCHO) 横浜中央病院 前看護部長 馬場 悦子 先生		
閉 会 式		

平成27年4月18日(土) 人吉市カルチャーパレスにおいて第19回JCHO人吉医療センター研究発表会を開催し、12題の一般演題発表と特別講演がありました。

特別講演は当院にも在職歴があります、前JCHO横浜中央病院看護部長 馬場悦子さんより「大都会における地域包括ケア病棟8か月の実績と現状」と題し、横浜市における横浜中央病院の役割や特性、高齢化の状況などから地域包括ケア病棟への変更計画と調整について、地域交流の取り組みや多職種との連携の話を織り交ぜながら、ご講演頂きました。診療報酬の視点から見た収益性やその検証、職員のマネジメントなど、大きな改革をされたことが分かるとともに、高齢化が進んでいく地域の中での病院の役割、チーム医療の重

要性を改めて感じました。

また、一般演題では私も「全国の災害拠点病院におけるアマチュア無線の保有状況と今後の活用」について発表させて頂きました。初めてのステージ発表で緊張しましたが、他の発表者のスライド作りや展開、話し方や質問に対する受け答え等、多くのことを学ぶことが出来ました。今回、発表の場を与えて下さった院長とご協力頂いた皆さんに感謝いたします。

今年6月に大阪で開催される、第17回日本医療マネジメント学会学術集会にも発表の場を頂きましたので、自身のスキルアップの場に出来るよう、日々研鑽して臨みたいと思います。

総務企画課 中村 佑希

院内がん登録 2013 年症例集計報告

今回は、当センターの院内がん登録 2013 年症例の集計結果をご報告します。

登録総数は 687 件で、うち男性 375 件、女性 312 件でした。

登録数の多かった上位 5 部位は大腸、次いで胃、肺、乳腺、前立腺の順となっていました。性別では、共に前年と同じく男性は大腸、女性は乳腺が最も多くなっていました。

年齢分布では 70 代が最も多く、次いで 80 代となっており、70 歳以上が全体の約 6 割を占めていました。平均年齢も 70.8 歳で、全国集計の結果と比較しても高く、地域の高齢化が関係していると考えます。

受診された経緯では、約 7 割の患者様が地域の医療機関からの紹介で受診されていました。また、がんが発見された経緯では、自覚症状の出現が 63.3%、健（検）診・人間ドックが 18.9%、他の疾患治療中が 17.8%でした。

地域がん診療連携拠点病院では、特に 5 大がん（胃・大腸・肺・乳腺・肝）の診療体制の整備が求められます。これらの初発症例のうち当センターで初回治療が実施された割合は、胃 91.3%、大腸 93.1%、肺 78.3%、乳腺 88.4%、肝 84.6%でした。治療内容では、手術（内

視鏡手術含む）、化学療法、放射線治療等を組み合わせた集学的治療が実施されていました。

他にも地域別、病理組織（がんの種類）別、ステージ（進行度）別等のデータを集計しています。今後も地域のがん診療における役割を果たすために、これらのデータを活かしていければと思います。

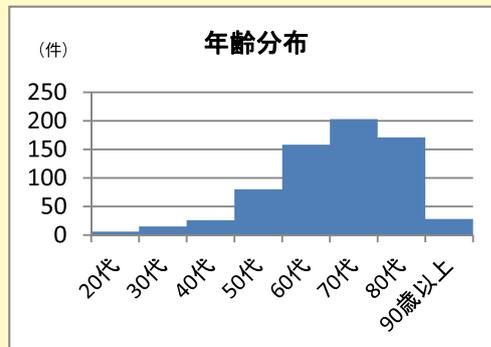
また、2016 年の 1 月からは、がん医療データを国で一本化し、がん対策に運用することを目的に「全国がん登録」が開始されます。この新しい制度では、「がん登録等の推進に関する法律」に基づきすべての病院と指定された診療所はがんを診断された患者様のデータを都道府県知事に届け出ることが義務化されます。

今後も、皆様のご理解とご協力を宜しく願いたします。

診療情報管理室 花牟禮 由美

院内がん登録…

地域がん診療連携拠点病院で診断・治療された患者様のがんについてデータを登録すること。そのデータは毎年、国立がん研究センターで収集・集計され、地域がん診療連携拠点病院におけるがん診療の把握や国のがん対策に利用される。



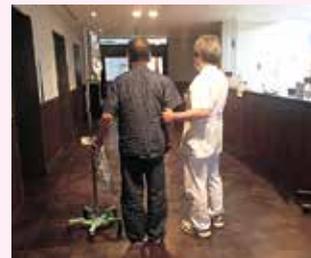
がん患者リハビリテーションについて

H27 年 4 月 1 日よりがん患者リハビリテーションの施設基準を取得しました。

がん患者リハビリテーションは、がんを診断され手術、化学療法、放射線治療、造血細胞移植などの治療が行われる方へ提供されるものです。算定に当たっては、医師・看護師各 1 名と理学療法士・作業療法士・言語聴覚士から 2 名の計 4 名で厚生労働省委託事業の 2 日間の研修を受けることが条件となります。

4 月の実績は 66 件 89 単位でした。全てのがんの患者様のリハビリとなると実施できる療法士に制限が

ありますので、外科の大腸癌術後、血液内科で化学療法を行っている患者様を対象としています。体力回復や基本動作だけでなく、心のサポートも合わせて行っていきます。



リハビリテーションセンター 理学療法士長 塚島 靖博

臨床研修医挨拶



4月1日よりお世話になっております、研修医の佐野あゆみと申します。私が初めて人吉球磨を訪れたのは、2年前の夏休みでした。ラフティングをし、鰻を食べ、球泉洞に行き、夏を満喫して帰りました。その後も度々遊びにきては、春風マラソンに出たり、お城まつりに行ったり…気づけば、「卒業後の2年間はぜひ人吉で研修したい」と思うようになっていました。縁は

どこに繋がるか、わからないものです。卒業した途端に「先生」などと呼ばれるようになりましたが、まだまだ未熟で、社会人1年生であることにも、変わりはありません。やさしく、時に厳しく接していただきながら、日々出会う様々な方から学ぶことばかり、充実した日々を送っています。今の気持ちを忘れず謙虚に努め、少しでも人吉球磨の医療のお手伝いができればと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

基幹型 臨床研修医 佐野 あゆみ



基幹型臨床研修医として人吉医療センターに勤めることになりました、堀之内 誠（とも）と申します。人吉医療センターを知るきっかけとなったのはひとよし春風マラソンへの参加でした。自然が豊かで温泉と美味しい食べ物がある環境で医師としての第一歩を踏み出したいと思い、研修するなら人吉医療センターだと決意したことを覚えております。4月から医師として第一歩を踏み出したわけですが、

病棟業務、救急当番など初めて尽くしの毎日にアップアップになりながらも充実した日々を過ごしております。まずは一日も早くこの新しい生活に慣れたいと思います。皆様にはいろいろと質問したりとご迷惑をおかけすることが多々あるかと思いますが、精いっぱい努力して参ります。ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

基幹型 臨床研修医 堀之内 誠



研修医2年目として4月から1年間人吉医療センターで働かせていただくことになりました末吉博之と申します。人吉医療センターは学生の時に外科研修で1週間実習に来ておりその時に病院の雰囲気や研修体制の話聞いて是非研修したいと考えておりました。この度、実際に研修できることになり大変嬉しく思っております。現在整形外科で研修をさせて頂いております。早くも2週間が過ぎました。外科での研修は初めてで何から何まで懇切丁寧に教えて頂き、とても充実した日々

を送らせて頂いております。また、救急外来では多種多様な患者さんを目の前に悪戦苦闘の日々を送っております。他病院で救急研修したはずが全く身につけておらず自身の未熟さを痛感している次第です。先生方、スタッフの方々にはこれからも多くの迷惑をかけるかと思いますが、未熟なりに精進していきたいと思っておりますので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

協力型 臨床研修医 末吉 博之



4月から、人吉医療センターに参りました臨床研修医2年目の河上純輝（じゅんき）と申します。熊本大学を卒業し、昨年度は熊本大学医学部附属病院で研修をしておりました。研修する病院が変わり、また生活地も熊本市から人吉市に変わったため、戸惑いの毎日です。そんな中、指導医の先生をはじめ、医療スタッフの方々や研修医の仲間に支えられて、充実した日々を送ることができています。

1年間という、わずかな時間ではありますが、研修医という貴重な2年間のうち、半分を人吉の地で過ごせることを大変喜ばしく思っております。まだまだ未熟者ですが、指導していただく先生方やスタッフの方々への感謝の気持ちを忘れずに精一杯頑張っております。ご迷惑をおかけする場面も多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

協力型 臨床研修医 河上 純輝



4月より熊本大学協力型研修医として1年間人吉医療センターで初期研修をさせて頂き古閑丈裕（たけひろ）と申します。4月は循環器内科で研修させていただいています。人吉に来たことは今まで一度もなく、4月になるまでとても不安でした。しかし、先生方をはじめスタッフの皆様が支えてくださり、そして熱心に指導して下さり人吉に来てよかったと心から思っております。救急外来を経験させていただきました

が、戸惑うことの連続で上手く対応できないことをくやしく思っています。また、分からないことばかりでスタッフの皆様にご迷惑をおかけしています。早く仕事に慣れて、人吉医療センターのスタッフの一員として、皆様の力となれるようがんばっていきたくです。1年間精一杯努力し医師として成長していこうと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

協力型 臨床研修医 古閑 丈裕

弱視治療について

人の視力や両眼視（3D、立体的に見る力）の発達は9歳前後までに終了してしまい以降発達しない事をご存知ですか。

小児の視力は新生児で0.03、6ヶ月で0.1～0.3、2歳で0.5、3歳で1.0程度です。

視機能成長の感受性期は生後から高くなり2、3歳をピークに9歳前後まで続くと言われています。

眼球には何の問題もないにもかかわらず、強めの遠視があったり、左右の見え方に差があったりすると片方の眼の成長が妨げられる事があります。また斜視や眼瞼下垂などが原因で見えにくい方の眼の視機能が正常に発達しない事を弱視と言ひ、適切な治療をしておかないと9

歳以降どれだけ治療をしても視力が出なかったり、物を立体的に見る事が出来ません。

そういった妨げになるものを早期発見、早期治療することにより視機能の発達を促す訓練を行うのが弱視治療です。

弱視治療は眼鏡による矯正や訓練を行います。治療開始は検診で発見される3歳頃が望ましいですが、少なくとも幼稚園卒園までには開始したいところです。

そのためには家族によるサポートが必要になります。視機能が正常でない為に職業選択が制限されてしまうこともあるこの世の中です。（以前より緩和されてきていますが…）子供の明るい未来を守るためにご家族と協力し、より良いサポート体制を作っていきたいと思っています。

眼科 視能訓練士 松村 綾祐

第37回地域協議会・第11回南九州3県 県境地域医療連携懇話会 開催

平成27年5月20日（水）あゆの里にて第37回地域協議会、第11回南九州3県県境地域医療連携懇話会が開催されました。

地域協議会は、人吉球磨医科歯科医師会、薬剤師会、西諸医師会、伊佐市医師会の代表者、人吉保健所長、学識経験者、から構成されており、当院が地域の医療機関の医師並びに歯科医師などからの要請に適切に対応し、地域における医療の確保に必要な支援を行い、地域の実情に応じた運営を行うため、地域医療支援委員会を兼ねる形で設置しています。

今回の協議会より人吉市、伊佐市、えびの市の近隣地域の行政にもご参加いただき、当院長から委嘱状の交付が行われ、人吉医師会長 外山博之先生に引き続き議長に就任していただくこととなりました。当院長から「県境や行政を越えた医療提供体制が大事になってくる。当院は急性期の役割を担っており、人材育成や設備投資に力を入れたい。災害・救急医療など皆さんと一緒に協力して、暮らしやすい地域を作っていければ。」との挨拶で締めくくりました。

19時からは、第11回南九州3県県境地域医療連携懇話会が開催され、人吉・球磨、伊佐市・湧水町、えびの市・小林市の医療機関、行政・消防、その他関係機関、院内スタッフを含め約110人の参加となりました。

開会式では人吉市長 松岡 隼人様、伊佐市長 隈元 新様



よりご挨拶を、乾杯のご発声を球磨郡医師会会長 山村 正統先生にいただき、開催しました。今回ご参加いただいた先生、行政・関係機関の方々や当院の新任スタッフの紹介が行われ、親睦を深めました。また、『データでみる南九州3県県境地域の医療の現状』と題して、当院 久保田 智子診療情報管理士より当院の現状や近隣医療機関との連携状況など発表を行いました。

締めのご挨拶では人吉市医師会会長 外山 博之先生より「時代に見合った地域医療構想として在宅にむけての医療介護の連携として3県が協力して盛り上げていければ。」とのご挨拶をいただき、盛会のうちに終了しました。

この度はご多用の中、多数お集まりいただき誠にありがとうございました。地域の中でのつながりや連携を大事に人吉医療センターの役割を果たしていきたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

医療福祉連携室 金栗 由佳

九州外科学会 研修医 Session 優秀演題賞受賞

去る5月8・9日 大分市で行われました九州外科学会において、臨床研修医の堀川先生・前田先生・小川先生が発表を行いました。大変珍しい外傷を伴わない胸膜外血腫に対して当院放射線科・外科が協力し治療を行い、良好な経過を得られた症例の報告を行った堀川先生が、研修医 Session の優秀演題賞を頂きました。



五木村診療所訪問看護「いつき」

五木村診療所訪問看護「いつき」が平成27年3月から開所され、診療所の看護師が地域の中へ出かけることになりました

『2025年問題』が取沙汰され、五木では高齢化率が45.2%（平成25年度）となっており、高齢者世帯や認知症の人が増加するのは必然的です。

診療所に通院されている方達の多くはとても元気です。毎月コミュニティバスを利用し、診察に来られ、『もう90歳すぎたっばい、そろそろ迎えがくると思うとばってん、まあだ、来ちゃくんならん。がまだしかたの足らんとやろなあ……アッハッハ』と診察室の空気を和ませて帰って行かれる姿に私達が、元気をもらっています。通院のための交通手段（コミュニ

ティバスは運行日限定されている）がない人や、内服確認の必要な方など気になる方もいらっしゃいますが、そんな高齢者の方が住み慣れた地域で安心して安全な療養を受けながら生活できるように、医療や介護の視点で介入でき患者さんや家族の気持ちにそった看護を提供できるよう頑張ります。宜しくお願いします。



頭地大橋から診療所方面を望む

人吉医療センター 五木村診療所看護師 今村 久江

初期臨床研修

県南の地域医療の拠点病院である人吉医療センターで4日間お世話になりました。主に救急外来での見学をさせて頂きましたが、さまざまな手技を私たち学生にもさせて下さり、大変勉強になる実習でした。その中で、積極的に患者さんに関わっていくことの大事さを感じ、今までの自分の実習への姿勢を見直す良い機会となりました。

その他にも、断煙外来、浮腫外来、訪問看護の見学など普段の実習ではできない貴重な体験をさせて頂きました。特に五木村診療所では地域医療の在り方やその重要な意義について深く考えさせられました。実際の地域医療の現場を目の当たりにすることができたことは、今まで私が持っていた地域医療への考え方を良い方向に変えたように思います。このような機会を与えて下さり、本当にありがとうございました。

関わった先生方や看護師さんをはじめ、生き生きとされている方が多く、そのためか患者さんも笑顔が多



かった印象です。研修医の先生方も親身になって丁寧に優しく指導して下さったので、大変勉強になりました。とても良い病院で、実習に来て本当に良かったと思っています。今後の実習や研修ではこの4日間で見聞きしたことを生かして、よりよい医師を目指していきたいと思っています。短い間でしたが、本当にありがとうございました。

熊本大学医学部6年 児嶋 美紀

この度は一週間、人吉医療センターでの臨床実習をさせて頂く機会を与えて下さりまして、ありがとうございました。私は消化器外科の実習をさせて頂きました。

手術には毎日入らせて頂き、先生に結紮、縫合の仕方を丁寧に教えて頂きました。私は大学病院以外の病院で、一週間というまとまった期間、実習させて頂くのが初めてでしたが、今回大学病院では経験した事のない症例をたくさん経験する事ができ非常に有意義な実習となりました。

手術の前後の時間には救急外来の実習もさせて頂き

ました。様々な主訴の患者さんを指導医の先生のもとで診ていく研修医の先生の姿を見てとても刺激を受けました。人吉医療センターは様々な場所から患者さんが来られ、五木村や県外の地域など広い領域の拠点病院としての役割を担っている事もよく分かりました。

木村院長先生をはじめ、人吉医療センターのスタッフの皆様の御蔭で貴重な経験をさせて頂きました。ありがとうございました。今後ともご指導の程、宜しくお願い申し上げます。

熊本大学医学部6年 池田 晴菜

標榜診療科名の変更のお知らせ

医療法の規定により、標榜診療科名の変更を行いました。平成27年5月より当院では以下の通り標榜診療科名を変更いたします。尚、診療の内容はこれまでどおりです。宜しくお願い致します。

(変更前) 代謝内分泌内科

(変更後) 糖尿病・代謝・内分泌内科

JCHO 人吉医療センター 春の総親会

4月18日(土)にアンジェリーク平安において人吉医療センター 春の総親会が開催されました。

まず始めに、当院の花壇のお世話をしている地域協力会園芸部を代表して山口ナナ子様へ、また2008年から当院の川柳句会でご活躍して頂きました西村比呂志様へ感謝状の授与を行いました。



そして研究発表会特別講演の講師を務めて頂いた馬場悦子様の開宴・乾杯のご発声で春の総親会が開始されました。

ステージでは、41名の新任職員の紹介があり、今後の抱負について一人ずつ述べました。さらに当院の部活動紹介が行われた後、大竹秀幸副院長の一本締めで今回の総親会の幕が閉じました。

今後も職員一同、人吉・球磨・えびの・伊佐を含めた地域の中核医療機関として医療機能の充実を図り、また、地域の先生方とも協力しながら安心できる医療の展開に努めてまいりたいと思います。

医療福祉連携室 杉松 紗織



西村比呂志様



園芸部代表 山口ナナ子様

新 任 紹 介



橋本 聡美 (検査部・臨床検査技師)
最終卒業校：神戸常盤短期大学
趣味：旅行、トールペイント
好きな言葉：感謝

長所：協調性がある

短所：優柔不断

自分のコマーシャル：笑顔で一生懸命頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

【ふれあいの記】

～院内レクリエーションの記録～



院内レクリエーションが誕生して10年を迎えました…振り返れば、48の若き木村院長ご就任と同時に、ご希望であるレクリエーションが装い新たにスタート致しました。訪れて下さる患者の皆様笑顔に、痛みを分かち合う温かい友情に、共に息づく喜びが伝わってくるのでした。レクリエーションの中で、自然の流れのように患者の皆様のおちずさむ痛みを目と目を見つめ合い、傾聴のみでやさしく心と心が触れ合う静かな感触を大切にしています。

昨年度に引き続き、平成26年4月から平成27年3月までの1年間のレクリエーションの記録「ふれあいの記」と、写真集「ふれあいの日」を、一冊の本にまとめました。

新年度も、患者の皆様のお一人お一人の思い出に寄り添いながら、ドラマの一時一時に感動と喜びの物語がスタート致しました。

ボランティア 梶原 章子

5月のフレッシュマンセミナー報告

- 5/7 工藤 耕成「人工呼吸器」
- 5/14 杉崎 琴巳「明日から使いたくなる裏ワザ」
- 5/15 大山 秀人「蕎麦について」
- 5/21 那須 朋子「熊本県地域拠点型
認知症患者医療センター」
- 5/28 中渡 春香「湯前町のパワースポット巡り」